

雙魚書日誌
大正六年
六月以降

特別
14
1919
572



復西の巻の巻

大正六年六月以降

六月

一日

大改ニ清在中、七の起来概不武亦其功
 有ハ大隈放、引合メ、浮田和民衆部
 有レテ年着直、家位ニ接テ、砂川所改
 有幼ニ有、叙、何ハ高、平田ニ、高田井上
 と共に、某酒樓ニ招カシム、高野高孝子
 後、文の物舎の海濱を、田村生後ニ
 海、聴セシ、也、年、有、日、云、之、の、ト、也、有

下村西大印、其傍、伏見一旅、之跡を傳ふ
家信：接り、午後一時、穀谷、音英
少少のをも、今、浦、と、し、大、い、ま、文、の、師、の、の
講、演、の、を、と、つ、あ、く、余、の、あ、い、ま、の、決、意、を
改、め、後、田、大、隈、長、井、上、辰、順、次、海、濱、
藤、原、忠、重、の、邊、に、午、時、開、會、前、田、博、
と、し、し、年、考、六、時、と、し、大、隈、お、二、ん、杭、
乙、大、隈、今、も、新、の、出、張、講、演、の、題、目、
今、も、あ、る、大、隈、長、の、講、演、は、あ、る、候、會、年、
と、就、こ、う、と、考、早、上、の、打、司、元、也、為、之、
至、田、助、手、江、津、印、及、余、の、講、演、は、あ、る、
も、今、も、あ、る、五、十、五、の、内、田、助、後、井、上、と、對

東橋原製

和、中、一、其、の、重、部、と、し、物、事、の、事、則、一、の、
と、林、生、し、と、似、あ、る、京、東、電、の、事、也、
倉、主、退、了、の、旨、を、電、報、一、来、の、

二日

昨、嘉、吉、洲、の、文、江、出、し、と、し、其、者、報、年、平、
田、邊、漸、大、法、明、心、山、本、仙、士、森、岡、が、文、の、
別、の、又、増、子、を、と、り、中、や、各、者、本、年、の、修、行、に、
付、其、物、海、名、及、次、中、の、事、船、の、決、物、
を、持、と、張、り、午、後、一、時、天、王、寺、の、公、堂、を、
こ、文、の、場、合、中、二、回、海、濱、會、を、開、く、這、
田、田、會、の、修、行、と、傳、へ、平、江、政、印、と、其、物、

終りの日(二)号(後)星野行則(加)徳報(現
在)井上(原)九(中)一(順)次(講)演(し)了(る)今
次の場合の運動有効と感(じ)る(ま)す
刻(も)大(改)正(ス)ル(に)於(て)天(隈)友(友)
ぬ(の)義(義)を(し)天(至)而(受)又(祝)意(あ)り(ま)す
歳(の)投(反)新(に)中(心)を(業)業(而)投(の)幸
業(生)報(る)會(する)者(七)百(元)会(衆)
者(に)送(信)員(起)主(砂)川(館)竣(謝)辭(を)
陳(べ)候(一)坊(の)邊(説)あり(八)時(こ)き(ま)め
り(り)ま(の)天(地)井(上)邊(田)田(中)増(田)平
沢(と)せ(平)麻(に)報(え)ん(深)更(に)報(む
報(き)以(る)者(の)存(り)す(の)り(者(本(身(に

東橋屋製

お存改換及の先をま也

二日

明(分)期(大)隈(信)に(面)し(政)治(論)を(聴)く
四(五)の(来)客(あり)十(時)井(上)田(中)井(川)為(次)中
を(席)對(し)て(話)の(元)其(の)不(長)の(者)也(を)報
平(沢)邊(即)平(田)邊(衛)力(野)に(別)り(同
説(を)お(の)の(報)告(を)受(け)平(沢)平(田)先(づ
去(る)余(等)も(人)を(め)ま(す)報(賞)を(取
る(を)も(念)を(現)の(名)抵(放)案(元)の(者)也(に
し(て)中(に)日(本)方(函)數(五)あり(洋)細(説
記(に)載(する)を(以)て(略)す(四)時(辭)去

リ詠ねに一派の後、小川平田砂川、根
えん灘為、飲玉、高田井上平記と
余定谷、親友の宴とを物、興を元
也

四

今朝ハ的ニ十九日大隈侯一行大改を去り、
余高田井上と候をえたり急行電車にて
其ノ京都ニ赴キ井上同付山嵐山ニ到リ
大改ニ見えたりとわたり山本邸に
従六也身千鳥ヶ淵の丘上ニ候を去り三
友梅支店におもむくとまゝ入り酒をす

東橋原製

偶々漢法に三四の船列をりてこの
リ前頭の一船増と載せ候を後や候片
を方ニ流し舟上最花の流の如し
間へハ地勢流しと云ふ、えんをえり
山嵐の行市也、名長あるに候や路兩
あり今と候り、歩くと電車、傍り
に到り、西の木倉河北大表、此
田と今、品生、碓氷、九時の急行
乙は、帰、東の全、此

五日

雨九時、中央、停、高田、自

勤事之日乗物電、宅の整心理未成
 ころ家々狼藉出たり、あつたといふ
 ころあり、大工のこゝちあり、一二棟、松竹の
 浦みたり、亭あり、秋分の表を、屋に托
 して、無層の、快縁成り、亦、一層、
 為額、之、あ、幅出来、又、以、其、之、台、此
 の件、有、事、功、内、修、し、も、あ、る、と、お、お、め、
 新、在、こ、此、す、由、**因**、家、と、整、理、火、災、
 廻、遊、名、の、親、あ、る、も、お、方、の、閑、静、を、究
 元、而、京、に、在、る、と、し、し、修、り、而、お、
 と、お、不、限、其、由、象
 して

東橋石製

皇令、期、程、村、字、八、今、井、遠、浪、道、遠、張
 堤、原、次、中、一、取、坊、た、的、り、と、も、前、時、隔
 宅、こ、の、印、刷、名、此、の、重、復、被、取、り、を、
 開、き、流、通、河、造、を、内、撤、り、其、田、増、田、
 中、山、中、の、大、江、前、時、と、余、今、會、社、の、末
 本年、九月、今、此、の、十、週、年、紀、念、会、を、終
 こと、此、の、社、の、社、則、を、改、め、流、通、を、
 ぬ、余、を、社、長、に、推、し、一、改、革、を、圖、る、こ、と
 内、決、し、午、お、の、後、御、宅、山、洋、俊、又、或
 流、あり、古、池、幸、三、寺、画、甲、五、龍、と、
 一、し、ま、り、見、る、本、の、後、意、の、押、入、
 略、
 成、る、。

町、早朝より波多野橋一帯望望と古河に
 湯成早月、川上河原の川上河原の板
 橋三、早朝より川上河原の橋を
 早交り早交り由なる早交り早交り
 一、早交り早交り、川上河原の橋
 河原の橋を早交り、早交り早交り
 七、早交り早交り、川上河原の橋
 早交り早交り、早交り早交り
 後、早交り早交り、早交り早交り
 得、早交り早交り、早交り早交り
 送、早交り早交り、早交り早交り

東橋

押入工事、出来ぬ程に、早朝より
 片づく、早朝より早朝より
 頃、早朝湯成早月、早朝より
 寺、早朝より早朝より、川上河原
 流、早朝より早朝より、早朝より
 福山、早朝より早朝より、早朝より
 の、早朝より早朝より、早朝より

園に平入をりしすの没頭す、

九の

両古池書下三三三と書ふは古池抄を
輝の喜多みよしの代と依せし二十四
抄の^{三三三}印の事ゆは古池抄の終り
より内流す午後而を衝て日暮橋の出中
より利り喜星家のと書ふを親と出陣古
西条系縁敷三三三と書ふは古池系
の確也三三三と書ふは古池系
りときよ三時半頃也、此の夜あるの件
は古池系縁敷三三三と書ふは古池系

東林居

なる、廿三の印が今此の株之後
今も此の者なり、

十の

而古池系縁敷の事ゆ、朝来知友に電
流をうけ十五十六ありの事あり、
王没頭系縁敷の事ゆ、
の事あり、抄の親也をうけける、
挨拶しし物あり、
の件あり、古池系縁敷の事あり、
日家系縁敷と書ふ、又一様也、
一七前裁、鉄を入る、一八家人相也

呼ぶも妨げさるる也 此乃杉井、島電校有
今海濱に出る者の件、分々々々、五月
分歴史回録本の配を達し来た、南島
菊屋高木(順)にその書を出す、此中
夫大子令儀(同書)路に於て其祠を急
うんてうししとやまき、南島校のし類
く奥田義人の一書をもあしして感言
す、

十一

向宿、古池寺に高田後藤吉のすまき表を
印才ある、前吟の男夫人危馬とすき見

東橋石製

の世と見らう、増田新一坊の雅志、書を
見し十五十六あひの少少と来今もとも
曼曼をまわり、茶室のの望、之くとも看手
す大工せ及便所、屋出し、書を感る、
此の人を招く、吾腹中、其他の三、具と
捨出さ、午後、家家の供と、とや命寺
文、此来り、前、先代の碑、又をせ、
等、此、ことも、三午、内、移、移、祝、こ、
印、を、船、ま、車、夫、と、後、し、と、玄、
巨石を藪の、ア、ス、十、口、刺、本、を、板、せ、
リ、他、こ、色、つ、こ、や、中、あ、の、杉、松、
と、為、す、杉、乃、杉、井、印、治、く、も、る、電、出

此は授改をいふの外は部文の
往く方と報ず、平山に托し給ふ
の骨董を五三十一七十七八の
と考し日録を配本し来る、其
人論の中あはさる、休庵を
回あまを言ふし来る未以
りある再考を在りて通す

十二

か初、吉木順平の職原の代亮外并息
意は其の跡を中甲に往り来り平内
りし事息を承る、その事

東橋日記

る、も夫らより橋本を四入来り見
び巨石を屋敷の底に納し又之を
巨石の地のを考し、将を狭い
交りその地のを考し、おき二
の橋本を考し、おき二
の地を考し、おき二
流場の橋本を考し、おき二
并、三入の、橋本を考し、おき二

十三

あは、本行の湯使先印、菊

来るに破樂の改料に包指目を根
きこすに十六方り各をたてこけ料に
を包又より、此の松井部改りて
吉道と見えぬ、宗家御指目を賜え
謝状をとりしり、本由を奉り念中業
の一部なる應用化を科あるに没計
成り毎々存つるを言ふる方建業を
とるに除を言ふ、大徳の事と
是般御指目を西島西島とありぬ
而も廿九とありぬ、流助言ふと
きぬ、修し七とありぬ、友と
り、奥の義人らとありぬ

東條石製

十四の

西、少米又七とありぬ、二十田高
の、大工とありぬ、松の縁を二
の、増を核きとありぬ、應用化
会の、件を中村とありぬ、
ゆ、おととありぬ、寺別とありぬ、
岸、おととありぬ、六とありぬ、
物、おととありぬ、七とありぬ、
と、茶室側の、名、の、地、を、
地、地、を、を、を、を、を、
を、を、を、を、を、を、
朝、集、の、件、を、を、

十五

明、早朝、着衣の姿、列り、荒干の物、を、
くし物、を、不互中、湯屋、に、成、後、田、以、武
事、を、田、路、柱、を、事、功、美、術、俣、事、部
事、列、列、の、色、を、得、る、に、柱、を、
老、に、午、後、に、冬、の、あ、の、ま、り、掃、除、を、
と、り、又、刻、内、を、あ、る、事、増、の、美、池、
此、一、丈、に、其、を、と、る、と、し、
り、た、的、に、活、る、中、村、原、に、
者

十六

東林堂製

明、の、代、美、一、も、事、者、田、中、
事、振、の、持、部、洞、者、に、日、内、
術、俣、事、部、に、持、り、日、家、
見、る、午、後、に、冬、の、あ、の、
す、又、刻、大、池、水、事、を、
増、の、美、池、俣、事、部、
一、寸、の、以、田、丈、之、の、一、
時、候、九、的、者、也

十七

明、の、代、美、一、も、事、者、田、中、
事、振、の、持、部、洞、者、に、日、内、
術、俣、事、部、に、持、り、日、家、
見、る、午、後、に、冬、の、あ、の、
す、又、刻、大、池、水、事、を、
増、の、美、池、俣、事、部、
一、寸、の、以、田、丈、之、の、一、
時、候、九、的、者、也

と云ふ一紙の向書あり其記を決し上り
海舟好めと云ふ大隈侯と云ふ云々の次
才と齋と云ふし正午一冊書付あり
所刊脚本二行と題する内多あり
寛文と云ふ使えと云ふ多あり日飲あり午
後又ありと付あり外出満州一紙あり
おとしまぬと題してあり

十六

前日早朝行村案は三時あり天宮と云ふ
此の向書あり於ける其の長文あり関す
の決定を謹述して之を川上法印本

東橋屋製

田原あり又江村と云ふ流又平山と利の
案上の件より耳流杉井神流と云ふ
と云ふより其の向書ありと云ふより其の
漸行と云ふと云ふ本は削れあり二の
色と云ふ行と云ふ現る増田義一と云ふ
の世と云ふと云ふ五字と題する上と海と
と云ふより初甲茶と云ふと云ふと云ふ
と云ふより初甲茶と云ふと云ふと云ふ

十九

雨の中唯今早山向行なり其流平山
本と云ふと云ふ流と云ふと云ふ

果と報し事ありと内は江ち好山
四千二万圓ありとありぬ洗
く心し、貯蓄銀行に約束年終
六十の回更々利引と報し
お林堅三圓者銀の縁より法
うけ来ぬ、年終平山をと
きま計る事と見る、き上高と
ころ七十と角五十二と内二
の年終利引正味八千二万九
一也也外、高橋義彦入札前
りたる、この利千五万圓の
わくをすとし、正味利千二
萬九千四百八十圓

東橋屋製

合計 七と果の五万四千八百八十
市平山をきま計る事と見る、
四とを平山をきま計る事と
四とを控除するんが差引、四
十日九割外、平山をきま計
出金の利五千圓の利子をき
んのきる五十一圓十九と
きま計る事と見る、き上高と
る二十とあり、あり、正味
し、北不足とあり、あり、
り、あり、島井、あり、あり、
あり、あり、あり、あり、あり、

西、早朝大隈侯と行のそ、早稲高田邸打
 迄の統果と報告先善、其の扱の記取
 の中、渉り治す侯ともしも、種々の記取
 リ、大侍の扱に於て二十数名の教授
 を直接、其の令し、余のそ、天竺のそ、長
 辞任、亦、善後の件、其の詳細、載
 陳述する所あり、傍出の所、只、問、に、對し
 ち、力、余、主、之、れ、こ、美、え、く、十二時、に、到、り
 吾、身、の、扱、あ、も、せ、是、認、す、る、こ、と、を、決
 し、其、其、の、扱、あ、も、せ、是、認、す、る、こ、と、を、決
 早、編、の、理、由、部、に、於、て、お、く、時、に、

東橋原製

午後一時、喫飯後、枕き、こ、ま、き、ら、る、評、議
 員、二十数名、に、對し、お、授、命、に、於、て、海、軍、に
 こと、大、要、要、同、部、の、事、と、陳、べ、し、め、ら、る、こ
 海、軍、の、治、政、の、改、善、に、對、し、て、各、の、所、長、に、同
 意、を、表、す、る、こ、と、を、陳、述、す、る、五
 名、古、川、市、長、と、し、て、就、任、を、祝、す、る、為
 田、人、二十数名、の、令、命、今、も、出、発、す、る、所、に、於
 け、松、井、部、長、に、對、し、電、報、の、事、を、任、命、す、る、事、
 あり、其、の、出、立、出、来、子、の、事、あり、こ、と、を、報
 け、其、の、電、報、を、接、手、し、る、加、藤、の、直、次、
 こと、松、本、を、祝、す、る、こと、を、任、命、す、る、事、大

古瓶一經節を賜ふるに謝するに
支酒を打と賜ふる、不在中稿を
岩吉來訪。

二十二日

西久須美君の書くところより、此のあたりに
たゆまず幼物を祝し、三つ殿切平
(五十四)を賜ふる、坂口正峯、寺島流
全船の件より、竹高向の古物と
あり、吉田寺、但馬幼行のり、と流す、其の
杉井、載り、日比文治のり、其流、正午
枝に到り、臨時の儀、其のり、とつと、
其も、辭任、其後任を決する、其のり、

東橋原製

名を、其のり、と流す、其のり、
てし、之、然、其後、其のり、
と、今、其のり、提、其のり、
も、流、其のり、と、流、其のり、
力の、結果、其のり、と、流、其のり、
も、後、其のり、と、流、其のり、
、向、其のり、と、流、其のり、
初、其のり、と、流、其のり、
生、其のり、と、流、其のり、

二十三

の樂を多し三時輕井澤研の汽車し
と信ふにけ久須美に別と生け一行内林
不慮の車止津に別と生け移居に
す保に由ある直江津に同行する
こ多し、多し輕井澤に一泊翌朝直江
く渡成る大隈侯の別荘を二現又其
の附にありて後枝の用地を換ると
新し多し輕井澤に別荘相せし時
十一時、無んとき、車京も候の別業
并にその我の用地に特殊の關係ある
洋組より并に坂本嘉治馬車京も
ありとありて停車場に中し、偶と車

東橋原製

京大隈家らも其地あり其の電報三
あり信者中其の死を報し其
於是多し一泊の這を多し一時
きの汽車と信多し其由京と
し其の別業を換えんし
中其の自働車と信し十四五所を
行き既に渡成を多し三層を
十坪の建業を一現あり其を總て
洋組に其地を河取ら而向うと
ありし建業あり多し其地を
あり、自費を以て其地を
其地の別業に附居る土地三

内苑とて、四方内苑あり、預く、無木とて、
秋祀とて、函名倣南苑とて、賜りて、
喜むる也、此し、古者好秋故其心亦、
翠峯二幅出、未由雪を、一峰志、
中、四後、下、つ、つ、つ、つ、つ、
心へし、梅あり、来り、多り、心、前、
天二株と、植、一、株、池、邊、に、植、
必と、直し、セ、メント、と、施、す、
と、功、を、残、る、心、合、を、秋、季、の、
清、水、印、刷、を、社、を、後、の、言、
房、加、修、高、田、中、と、日、勤、奉、
同

東橋原製

糸物也

二十八日

所、拂、晴、向、陽、格、次、名、物、を、
公、行、事、と、聞、く、心、所、願、を、
ま、る、る、者、と、も、し、死、す、と、
か、其、望、を、と、祝、き、死、終、
う、と、し、と、祝、す、未、亡、人、
心、入、事、後、國、茶、志、
十、数、と、他、の、福、し、身、
す、園、ち、り、来、り、の、林、
也、内、苑、を、言、く、也、

送、新油の爲に出来たらしく使同大
改抄紙とてこの版の物定考別本、江
部法夫名四巻をとりし、初、初平縣和
あり、印所別本此配南通和事あり

二十九

時、帝問も在社とて謝を乞ふに平直の如く
ふまふまふとて葬式ありと決す、葬式あり
とて二十日外、香華料五回を乞ふ、本宅
子符母死云々梅状を乞ふ、白留文次
印子安現示梅、清菜改、五路菊
何處の文、才あり、坂とて平直を乞ふ

東橋屋製

さ、新油の爲に出来たらしく使同大
改抄紙とてこの版の物定考別本、江
部法夫名四巻をとりし、初、初平縣和
あり、印所別本此配南通和事あり

三十

小南後、早朝をぬき、このころを物より
其の遺骸、あし、傷、手をとる、九
ひ、葬儀、執行、このころ、
手、安の、公、儀、あり、行、き、難、き、こ、
後、安の、公、儀、あり、行、き、難、き、こ、
維、多、多、多、と、信、み、終、多、多、多、多、
後、多、多、多、と、信、み、終、多、多、多、多、
呼、妙、記、ハ、ミ、其、の、原、島、と、其、位、こ、つ、こ、
天、中、こ、ミ、ミ、ミ、所、身、ミ、ミ、の、端、統、ミ、
余、ミ、ミ、ミ、天、中、こ、初、ミ、ミ、所、身、ミ、
天、中、と、余、の、別、こ、海、津、と、ミ、ミ、ミ、ミ、
結、島、天、中、と、急、衣、と、ミ、ミ、ミ、ミ、

東
棹
屋
製

何事決定しを元、ミ、ミ、ミ、ミ、ミ、ミ、ミ、
ミ、山、形、の、伊、原、徳、あ、り、ミ、ミ、ミ、
時、流、ミ、ミ、ミ、山、田、烈、盛、の、計、利、ミ、
生、母、葬、式、ミ、ミ、代、人、を、出、す、

七月

一日

早起、園、方、と、懸、地、ミ、ミ、ミ、ミ、ミ、
ミ、お、老、ミ、ミ、ミ、ミ、ミ、ミ、ミ、

査正終死を贈心屋中し流の舟終に流
あてなきも、毒地又たやう流の毒地高
海を岸の中流の大流中なる、客をる後
みろと驚く神田をこ物を贈心終に流
此に流物高を三と見ても、後流
福静二すも、校給を付云す、流給一
業を流しし自動車と配う先つ方
田を流のし余の案も、同書を在り文
るは流の如流を流のし同流を在り文
得終に流のし流のし二めり、流のし
流論に流のし流のし余の案を納ん屯
三三の時、千前流の也

二〇

あは流の中流下りを和き流の
と報をやう流の文二部、流の余
らと内部の流のし流を詳述し、流の
こ流のし流のし余の案を、其基
き大流流のし流のし流のし流の
外ありしと、流のし流のし流の
こ流のし流のし流のし流のし流の
流のし流のし流のし流のし流の
を詳述し、流のし流のし流のし流の
流のし流のし流のし流のし流の
部を流のし流のし流のし流のし流の

年五乃同也。治す、又刻高田宅に理す
と先、今申し、その長、同治す、つと、并、激、終、に
維、新、多、久、所、印、破、難、治、者、も、中、途、に、復
印、多、子、馬、治、治、者、を、先、下、り、と、を、思、ひ、
扱、き、程、に、協、治、の、末、も、其、法、定、法、を、改、心
し、目、の、長、を、選、ぶ、る、の、法、を、定、め
あ、の、の、の、も、ま、い、送、表、の、外、果、に、い、ま
定、ち、や、し、と、法、し、十、時、頃、也、校、反、三、名
と、ま、四、名、を、い、ふ、余、に、其、聲、迫、状、を、定、す
せ、し、者、も、あ、り、卑、劣、治、の、為、り、所、一、笑
に、値、せ、り、夜、来、而、あ、り

東橋原製

三〇

雨後晴、早朝、田中、終、結、り、耳、功、時、
高、田、部、に、決、定、し、こ、の、ま、長、公、送、の、形、を
つ、と、云、つ、す、前、報、余、も、略、々、同、論、を、し
う、初、と、先、の、余、に、同、也、終、に、高、田、部
に、田、中、終、結、盛、治、治、田、中、部、に、
余、今、今、の、上、前、報、の、決、定、を、教
し、一、此、等、余、高、田、と、協、治、の、案、を、
戻、り、と、し、も、校、反、に、對、す、る、途、に、思、よ
り、一、此、等、天、會、に、を、ら、せ、る、に、あ、る、の、
軟、論、高、田、の、し、楚、り、盛、治、持、三、ハ
困難、に、陥、り、あ、り、十、時、頃、校、反、内、と

話し総長侯の旨に應じあり田舎電話
内家田舎村に三理より行く候ら
その様子のりする事につき懇話あり其天
保三入熱湯の上解決すし其令
あり、此に校友委員又総長より其話
を受け、五時より例年の話飲え
去る候も、其旨を後散す。

四の

此、陽柳出来、其林望に來り、其
後の件遺族は其の事より其校友
高木貞昭等様と係り、其旨を後散す。

時高田中も、三理より其旨を
より町長と申す、其に三人令成の内
容に付、其旨を前報に其旨の旨
員の旨を待合せ、打合をうし
三時物宅、其旨を三理より其旨

五の

凡、其旨を三理より其旨、其旨の旨
の報あり、其旨を三理より其旨、其旨の旨
に其旨を三理より其旨、其旨の旨
午後より其旨の旨、其旨の旨
の旨年より其旨の旨、其旨の旨

が、国海内よりみ行く、勘定及び三理等
と世に高田邸に命する、天竺を制する
改革後、その旨を命じて、御用の方高田
と挨拶あり、左に命じて改定年より
新の天竺を提案の泊る、毒丸の事
おこつて十の迄揚揚す、来九月天竺
舞位の日、余、國者、彼長、花、大典、紀念
毒丸を命じて、田中唯七、此の
を解する事、を内法す。

六の
角又時後、田村又六、其の在位、来

東橋原製

此、土田亦、決、中、に、此、の、田、は、り、三、子
那、有、奇、行、を、命、の、来、る、午、後、閑、と
得、る、家、什、を、教、口、罪、す、五、時、藥、地、物、
春、軒、に、校、及、大、命、を、臨、み、時、令、を、命、
の、由、存、る、天、竺、を、命、す、と、執、道、を、命、
し、る、言、説、あり、今、時、際、に、たり、余、等
沈、黙、と、命、を、命、す、この、傍、親、を、命、
不、命、を、命、す、と、命、す、前、日、田、中、吃、と、命、
し、る、命、を、命、す、命、を、命、す、命、を、命、
命、を、命、す、命、を、命、す、命、を、命、す、

七の

風と狂有縁を云ふ、決意を成す
二三事物の定まりし事、或る遇ひか、指
針ニツク候の件、有来迄、評じ、口以、
文ニ印、池田龍一、二ツの候の件、
本年論議十二、此に別り候事、口以、
印刷、此の巻後、合て、協也、一時、
田部、維新、貞と合す、此、天竺
の態、有来、此、考、校、改、革、
委員と名を、入し、との、校、互、合、
ト、此、候、の、決、意、有、協、議、
を、成、す、と、云、ふ、と、天、竺、
リ、る、と、云、ふ、と、評、じ、
合、議、中、

東林堂製

大山部夫宮崎村宮崎外一名(所増)
フロラスメントの諱名ある者)余と云
ひ来り天竺の再任と云ふ候を、
有る候として、此、
行、の、評、じ、
福決を報じ、
四時、

八日

昨、風、故、に、五、峰、寺、入、江、集、一、在、木、
山、田、東、洋、第、幼、東、洋、
其、を、評、じ、
崎、村、宮、崎、外、一、名、

創立三十年記念として物を贈る、午後
日向文政印を納るる言振のり子を給し二
時頃内通を遣に招く、歌鳥の夜を、牧
の方を、親ら、偶に場所、皇子馬法中
の、は、次印と念うし、七的、半、お、お、て
自動車を、怒る、余の、電、併ひ、こ、り、お
校、り、り、紙、中、の、取、り、の、推、お、負、合、こ、り
き、協、成、中、田、印、唯、及、奉、三、印、七、奉、合
十一時迄、滞、留、し、め、朝、更、々、々、余、の、電
に、推、お、負、の、大、部、分、と、な、り、し、既、成、す
べしと決してある

東條屋製

九日

昨日、城下のの年、山九、一、歌、空、の、つ、こ、介
御、儀、毛、野、を、け、あ、り、遣、こ、け、し、歌、石、三、つ、つ、環
外、を、お、お、り、下、面、部、の、約、半、部、給、出、さ、る、あ、り
入、つ、十、日、間、刻、引、り、湯、浅、右、印、奉、未
取、集、る、高、木、ら、と、茶、流、の、急、須、を、贈、り
る、九、時、こ、も、と、故、奉、回、中、吃、田、中、徳、橋、増、子
と、皇子、中、吃、の、推、お、負、其、の、功、此、取、協
議、の、子、を、再、議、し、大、要、の、所、知、の、色、り
決、定、し、十、一、時、余、の、田、中、故、奉、回、付
高、印、を、給、あ、り、廿、日、迄、念、を、得、め、め、の
推、持、力、厚、に、提、お、あ、ち、ん、と、さ、る、り、子、給、

憲法草案を内閣して均電下、新井郡
況々、耳舌、官法科、海、送若、事、
業、紀、二、五、日、内、子、海、行、乃、出、法、功、
定、法、海、内、可、坪、内、も、り、送、耳、功、子、我、の
経、議、を、協、議、し、決、定、を、せ、し、て、あ、る

十日

明、毛、利、書、を、内、閣、を、設、計、二、行、其、法
十、の、を、維、持、者、存、出、の、為、既、登、校
思、切、切、に、於、て、五、分、先、の、事、を、し、
校、視、政、正、案、を、提、出、す、所、に、関、し、天
地、の、維、持、者、と、同、教、の、油、査、委、員

新橋製

を、教、授、者、に、評、議、を、し、て、各、を、互、選
せ、し、め、維、持、者、と、世、に、油、査、を、し、む
べ、し、との、提、案、あり、これ、を、却、し、異、論
成、先、に、起、り、逆、る、内、閣、し、置、き、さ、
余、り、案、即、ち、維、持、者、を、決、定、
拒、せ、る、者、を、ん、心、付、の、三、國、体、と
い、し、し、る、油、査、委、員、に、加、は、る、一、
人、を、と、せ、よ、と、決、し、教、授、評、議、を、
し、各、十、名、を、互、選、せ、し、む、べ、し、と
決、し、午、後、二、時、散、會、す、と、の、り、重
大、の、令、隊、を、出、し、所、者、を、多、く、何、ん、
も、バ、い、さ、う、余、と、誓、題、す、と、し、心、理

よりし京洲繪紙の徹座を缺く
儀あり終り二三回も言す大隈
位者三長守中より内城内と内城
すもちあり数回内城内と共ニ其
と内城内と共ニ其
多うけしこと

十一日

時、湯浅吉印可法、鎌田初造日本銀の
印の支度、出納主候よりその印を任
命す末、印の各方を通し、印の各方を
公、和井郡法、錦茶屋仕拂金屋

錦茶屋

干しを郵送す、印の板を合らんとし、
印の口字の字を記す、石印
三印より其者、後合も植木家を
き、危き二年入を為す、徳百女史を伴
て神田の物を購ひ、八月廿二日酒倉
より、学校より校規をある、附帶し
十三日相續お員合とある、この通牒来る

十二日

時、と乾高印の城の浮田塩原高田
中より、先づ到る、高田より
日徳長を治の可成し、歟末と報
一、天明再任の日、現より選任を誤

とて其後、徳吉に江を引つて然果せしむるは
其の弁井柳方なりと云ひし今田のりやと
高田の天竺に依りてあるに要するに
内部の運動を為すと此責せしむ
るに其等につき報告あり、此等天竺
の査に揚果のるに生るに皆を之前
途直念すまざるあり、少くも其を
云ふの問題ありつても衆議天竺不信位を
憲法制定前迄に引くし之を急務と
へ一同進退を決すべしと云ふ、故に
其中より旅行中にも其論を
浮田若くは其論を主張す、増子、後を

高田

あり又別と一論を立つ、結末のりや
余の書にありし再談するを決し、其の
り、何れも特異なる旨に思ふ、急務と
：對するに其れを協定し、二時由
す、本の古の部と名する者十八名の
余思ふ、二人は其の途に在り、浮田
本中、此の九人より、坪内七郎り、
高田と坪内とを、特に、高田を、
と、他ののあり、其の地を、
ん為也、其の増子、其の、
古時間、其の、其の、
まら、其の、其の、

時、江府中谷正雄の母車り同父の子を爲す
 在りし中、係法を托せり、早朝喜田を以て
 して所領増子と協儀の事をも云々す、併し
 増子馬次余を以てし、身も増子
 を以てし、此類の協儀の治才を以てす
 増子同意也、たのめをも是なり、我恩物
 給へ、惟持あり、身を以て、改正校規
 こと、遂條討滅す、天啓も、終身
 惟持あり、を冊云の提議也、つ成立せず
 衆議、惟持あり、五十名の原案をも
 四十名と改む、十六の再會をも以てし

東林堂製

時、教令、浮田和氏天啓不信任を以て
 由り、辞表を提出し、一時も維持員
 余の家、合し、皆の意向、即ち、格ける協儀
 を引つ、き、研治し、結ぶ、天啓再任
 を以てし、辭職の事をも決し、大隈
 徳長、其、衆と評し、徳長を以て、天啓
 を罷免し、あること、内決す、此の
 事、中谷正雄、増子、浮田和氏
 中、中谷正雄、増子、浮田和氏、同去
 る、本、法、定、の、事、を、天、啓、を、以、て、入、り、み、未、だ
 ら、し、と、云、ふ、事、を、不、信、に、以、て、以、て、名、と、余、の、事、を
 退、れ、お、こ、れ、に、教、令、を、以、て、大、の、事、也、を

幼き日五回送付しり、一時も余の
宅くまき子あり中中坊増子塩沢坂
本村今更に先りらね高田と交渉
の結果を報せり、高田も亦今更に
滋論を説きし、未だ論定法改正
の結果天理を以て仰く、此事に
去を得ずとせん、心号を諱すの
か、可しと云ふ、然るに其の域に
ハ高田論九月洲校の旨を伝へ
しと云ふ、ある、然るに高田去る後
九月を待てハ徒らなる生を齎す
せしむる、徳あるを乞ふの願あり

東橋原製

富平より急ぎに辭意をも決し、高田に
先を以て、つとむる、大畏徳去、天
理を刺刺しく、然るに其の域に
辭職を以て出づ、其の旨を以て
日内と春論し、刻に於る時、向
おし、大死を乞ふ、一、東と云
は、え、あり、耳

十名 口唱

時、四時起床、朝飯の後、又つを付、あはれ
念の世に、判り、ある、後、も、世、未、に、年、入
九を、し、し、ゆ、さ、り、あ、れ、を、受、め、十、百

去るの電車に乗るなりを好むは
二車一し初所術政に物を購ひ
立接の節し二のゆき、外出中
中唯、塩原の路の身、函根
海軍毒成の信をとり、この
らと来方、進退のつぎ云々、増子
ソモの旨、治しをき、雖も思ふ文、
おろし、塩原の身、身、身、
巻二、関する、不、不、不、不、
功

十一百

東林書院

午の初、午後、蠟燭の光を、
相大も、三、三、三、三、
空、一、一、一、一、
位、一、一、一、一、
恩、一、一、一、一、
士、一、一、一、一、
海、一、一、一、一、
油、一、一、一、一、
日、一、一、一、一、
坂、一、一、一、一、
身、一、一、一、一、
激、一、一、一、一、

予獨辭を呈ししを其報先
リ程に激増子に委命ありし
河内町の決意を固執し
時長官を以て決意の次第を
既し天の再任を阻止せん
内決す保し其を大隈侯に
しとあり四内にも知らし
と云ふは余は其の旨を
を以て其旨を報せし
と打合せ玉の旨あり

十七の

東橋石製

を親七の守りし念の如くハ
大隈侯を以て校給に聞
陳見とす候儀に留時侯
リ而んを以て午後一
中務候を以て口とす
唯心家の排を以て
軌道を負しし
きとのありし
と不のとす
とす
こす

吾我の物候之奇附名に不信肉を
持するの危歎ある事天甲を捕獲
するの心ある由と激しく形勢を造成
し来りて後一月を待たずして八海り
羅きこもあらん禍を降くハその時
存るべきを懸引するハ其の操らん丈
而側と深き事天甲をせしめ毎日を
あ念せしむる也も急を要あると論
し候也首出甲をらん順序とりて其
田内六甲を捉き断する不あるべし
と撰採りてらんを候に別ん位事
氏と云々の事も打合ハせまきふと候

東標原

肉をゆめとらるの事と報し余を甲
乙とある由をゆめと欺末を報せん
而之高田不たの爲め於朝訪問に
決してゆめ、日清印別命を以て
土地購入し甲修入を甲四千四の利
子すまふとせざる六十甲也を甲
ろ、植木を甲所り年々の産の皆後
の甲入と爲す也又江本一東話

十六

朝事細而記に、植木不危産植十二を
と甲いすりて甲の爲りゆめと著話

いえいえと云々地返に應をゆき、報
おらぬ田中唯下申事初回件此日大
隈若沼言の仕末を高田に報せんを
大隈印に在る回人を訪ふ、備は内七
軍獨候に進言せんを事申し候事
高田は此の余等の進言に爲し、諸
方の為候と報せんを事申し候事
詳細高田に報し高田は其不具の
体云々余との言に高田の派論を
内傍ららし余を援く激論果てさる
内城内先づ候に湯見ありあり高田
古六候の言に入る、余其の仕末を聴

東橋原製

いと欲し待つ候に、塩津場子来り
此の言を以つて、高田の結果田
中秘儀を金子馬流中待し、此の
事あり候事、高田は此の候との人意
見の指針を要する候の言を、氣
此の言を事候の言の言を、事候を
事候、此の言の言を、事候の言を
進言候に、講議の状あり、余等
聴て不満を云ふ、事候一同午後迄
激減可終に決する事候、高田は内
にぬれ一同余の言を、事候の言を
飽ませ決意を祈り候、事候の言を

内を經るの候并に高田に金暮の意を
改さんと撥し一回城内を訪ふ城内併
進しと聽りてさるに於て一回相入り自
動車一を廻り高田を引きて決意
の治事と別座を天を點しさるる
とんば其我と誤ることと言ふ高田七
略に金暮に同じ其の治に應し十日
間の從給と共に其河に善政策を
策せしの際成る上を候に政行と
進言せんと言ふに但七時一回退
出す、高田内を校らるる事案の考課
状を送り来る、本日の御印刷の重

東洋書院

役命あり高田のあり行く能はず

十九日

町と高田内を推し其功の取来意
を辭意と決しさるると其理由を
云ふ事高田内を治田中時と相
城内に決意を示し余の宅に辭志
を認め推し高田を提出する事
の、城内高田中物の中を其
功の取の功の山にえり
手を廻らしさるの務めを
日の務め高田の一字あることを

津、赴らるゝ、九の十日印刷会社に
 赴き前田幹事を招き、その日の
 校友会幹事会を以て、天町会長の
 幹事の所を以て、物事を之れを以て
 し、井中、檀木、に依り、校友会を以て
 く、非非、其の由り、指名さん等
 選挙の方法、委員の職権が、つき、し
 夕、幹事会、行ふべき、件を、打合
 せ、余を、出、居、せ、し、ま、し、と、す、野、田、印
 刷会社の重役会に、依り、一時、物、事、也
 濱田、西、田、中、等、子、坂、本、中、の、権、限、外
 有、り、と、す、西、田、の、意見、堀、内、の、解、任、也
 堀、内、の、解、任、也

東洋日報
 第二号

二十一日

前、早、報、湯、成、は、り、東、北、湯、山、の、権、限、外
 一、其、を、解、任、す、政、田、一、と、決、め、し、ま、し、ま、す
 の、約、定、を、以、て、持、持、任、任、を、以、て、其、の、権、限、外
 と、す、堀、内、本、三、印、を、以、て、以、て、其、の、権、限、外
 有、り、と、す、堀、内、の、権、限、外、と、す、堀、内、の、権、限、外

多午後より余の宅に召合を為す
とし各負を凡集す。時辰早稲田出
身、我々各負を天中流し、若原の
結果、系に枝友、群多、余の、於、秋を、前
田、あり、河、淡、川、に、平、し、こ、し、轉、と、天、中
の、暴、に、憤、慨、す、る、こ、の、漸、く、お、き、を
濟、出、の、能、向、あり、加、り、の、直、流、方、し、人、を
せ、し、香、典、(五、田) 蘇、し、こ、の、を、我、を
給、る、一、時、を、し、余、の、宅、を、濱、田、の、中、に、修、作
坂、本、中、修、事、を、お、り、き、し、と、政、本、と、協、成
し、修、作、を、再、派、す、結、局、時、の、案、品
く、決、す、田、中、徳、祐、を、案、の、仕、末、寺、を、圓

東
林
院
製

院、す、四、的、教、令、故、増、子、花、百、中、來、り、ゆ、
時、を、主、子、馬、流、す、る、主、子、と、も、り、合、ん
の、結、果、を、せ、し、彼、ん、が、余、の、案、に、回、意、
を、表、し、結、局、の、り、よ、う、を、再、派、す、こ、の、
る、る、

二十二日

卯、八、時、家、を、出、で、芝、草、を、定、所、ち、松、寺
に、到、り、お、り、の、直、流、案、の、蘇、成、に、迄、み
ゆ、(余) 神、田、に、こ、の、田、考、を、辨、ひ、お、り、未、示
こ、二、三、の、物、を、辨、ひ、風、月、中、に、致、し、七、四
書、外、出、中、寺、尾、え、之、片、才、耳、功、の、

明の東方回訪記の由を報す右在尋南
方協激の大略を報しし其の由の卷
あり世ふ

二十三。

時と経ぬ間を以て花幅荒干を出し
自始自干をあり。毛利喜彦は國考終
建榮國あると云ふし其の由の文
次中校約に付来治、鐘も塔も並一
即ち本治午後一時瀬川克行堀田輝左
右方書大観に載せん其の由の書意
を一説せんことを七と云ふ。朝来元也

東橋原製

一豆ける幅荒干を示し其の由
を以て撮影を以て北河内府津
高の由を電報を以て天竺の由を接
扱を報す其大略を天竺の由を以て
初久を以て校約を以て推すと云ひしを今
も信しその理を以て指し示すこと今
校約を以ての由を以て言ひ出せること
し其の由を以て今も其の由を以て
推せんことを以て海防の由を以て
す又理を以て指し示すこと今も其の由を以て
し其の由を以て今も其の由を以て
所以を以て其の由を以て今も其の由を以て

しをりて容易かきさる及動を記し
るよりことと詳説するや天竺の款
毛着るく夏しははくはくさるる
公望誰しと云うはと云ふ者高向は
夕由東を云ります右の書証に候う急
に大隈総長に而合の先事を
浙の事と云ふと云ふは大隈の
ちく田中水産館七束今候に面し余
り詳細を説す候七段に決意を
し其の天竺を記し詳説の動を
を云ふと云ふと云ふ二時百に涉り
天竺行脚の事と云ふに打合せし退し

東橋日記

す、田中書院田中梅嶺と智珠と交授
す、校互依系系名に中丸丸市也就
に付挨拶状を寄せし事

二十四

時、早朝高田を往り田中梅嶺に挨拶
田中梅嶺も馬車に校係に付あり三日の事
を梅嶺可成り余等寺に合衆の結果
に夏更さるる高田大隈館へ行くに
後坂より梅嶺より高田へ往りし
に梅嶺より高田へ往りしに梅嶺より
高田へ往りしに梅嶺より高田へ往りし
に梅嶺より高田へ往りしに梅嶺より

リ、孰の塩とを賜ふ、沼田和氏とて耳
考、予校の伝、激る意見と陳べ、未だ加
田直次郎あり、一七〇〇年、杉孝に、利り、塩
終り、直と辭して、石塚三平らと、新
報あり、之友、田原、采次、男、英夫、死云の報
到る、一時、し、沼田、中、生、子、後、本、塩
津、中、崎、本、名、合、と、井、吉、の、維、新、會、
ニ、其、長、後、の、あ、未、る、身、的、澄、湖、の、志、の、
報、高、海、井、大、浪、浪、中、と、功、の、を、元、故
の、事、を、報、する、こと、井、吉、朝、一、回、云、の、
を、功、の、を、情、説、的、形、勢、部、老、を、為、す、こと

東林原製

等と決し、四の皆去る、内子と、田原、
考、一、兄、弟、い、し、し、あ、い、校、の、校、例、を、
田、文、次、の、一、本、治、其、要、略、を、新、田、江、の、
早、達、也、田、増、の、義、一、と、世、大、世、侯、に、
え、ん、中、の、学、の、一、海、り、各、校、の、関、係、を、
と、結、局、天、命、と、あ、し、新、報、部、を、
ふ、し、し、の、命、と、あ、し、三、人、の、命、と、あ、し、
四、親、交、り、了、事、田、川、藏、の、事、を、一、
侯、の、命、と、傳、く、勅、先、せ、し、と、あ、し、
四、今、の、編、者、に、あ、る、天、命、を、田、川、藏、と、三、浦
藏、と、り、し、と、あ、し、明、報、部、の、事、と、あ、し、
と、あ、し、と、あ、し、侯、と、井、吉、と、田、原、と、

すといふに、此のよきと云ふは、滅法を廻け
たきしをあること推し、得し知らす
天命との此の侯のまゝあり、位りす方、頑し
し私を遂げんとする中、おろすや、
多向あるまう、物を廻す

廿方

時、早朝、吉のあま、卯未、文、潤、古、大、江
乙、東、川、上、邦、基、交、て、ある、ハ、の、龍、司
々、谷、高、物、に、到、り、田、原、吳、支、の、森、武、に
臨、み、同、墓、地、に、あ、る、柳、城、を、壬、の、墓
を、拜、し、同、志、の、多、く、あ、る、高、の、外
に、赴、き、行、て、お、念、の、上、徳、を、部、に、到、り

東橋原製

徳を、面、し、余、を、位、り、の、廿、方、を、維、お
た、る、に、柱、を、念、を、ま、中、解、脱、の、決
滅、を、め、す、の、に、せ、し、ま、き、ま、到、り、ま、次
中、を、改、す、候、に、出、域、さ、る、是、死
に、及、ぶ、事、の、り、る、を、あ、り、引、續、き、行
ふ、の、打、念、を、め、す、唯、さ、中、解、脱、後、何
人、を、死、す、ま、し、あ、り、分、さ、る、を、謝、せ、し
る、に、幹、を、し、ら、し、ま、る、に、つ、き、滅
論、田、志、を、し、出、し、ま、る、を、責、任、を
加、へ、し、依、つ、て、命、に、し、ま、る、に、余、の、一
行、を、別、の、案、を、提、出、し、維、お、る
中、の、七、名、を、死、す、と、す、る、こと、に、

を交ぐ、田舎の張本もさきき

二十七日

明、今度一人一重一級桂次郎、田舎の張本
外二三家と古伝を貰う、二十万の石を
浦後田中次郎、扱う、今度、築地橋
昔の朝也、増子、枝、物、舟、東、伝、野、田、中
唯、下、り、ま、す、流、河、車、田、狂、信、と、い、ふ、著
横尾、在、必、信、と、い、ふ、著、一、路、の、大
隈、却、に、持、つ、所、持、主、の、の、増、田、不、連、昆
田、七、才、の、増、田、の、二、人、と、い、ふ、高、田、に、取、持、し
今の、維、持、主、の、決、ま、り、を、述、ぶ、ん、こ、と、を

東橋原製

於、す、動、機、の、高、田、幹、藤、流、の、九、才、の、年
後、一、の、迄、迄、持、つ、こ、と、を、述、ぶ、ん、こ、と、を、
今、う、ち、を、増、田、中、村、(近、年) 後、田、貞、一、三
所、持、主、の、所、位、を、一、の、決、し、次、今、を、廿、九
日、午、後、一、の、と、決、減、す、と、い、ふ、天、明、出、立、所、七
和、今、持、主、を、大、隈、却、に、取、持、主、と、す、と、い、ふ、流、す
こ、と、を、述、ぶ、ん、こ、と、を、述、ぶ、ん、こ、と、を、述、ぶ、ん、こ、と、を、
波、瀬、も、余、浦、後、野、田、と、い、ふ、増、田、早、連、の、江、ぬ、を
得、たり、ま、す、と、い、ふ、増、田、早、連、の、江、ぬ、を
今、こ、見、受、つ、つ、こ、と、を、述、ぶ、ん、こ、と、を、述、ぶ、ん、こ、と、を、
三十、万、石、迄、迄、持、つ、こ、と、を、述、ぶ、ん、こ、と、を、述、ぶ、ん、こ、と、を、
と、廿、九、日、迄、と、備、心、し、且、つ、三、人、の

軒旋と御停に返さることを全同
と代表し七條件とす、たの閉合の金
子同伴は内取金をとつたて願
と報告す、大洋路一とて金
第一面を照らす、又早川純三印
埃及細首を若と照らす、物より大
隈家とて天印とて返差ある候旨の
勅免に應じ、難き文書なる由電報
を報す、其の他と協議の上、
利ハの大隈邸に、今午の申会を為
す

東橋屋製

二十八日

朝もあつた雨ぬすう冷氣を感ふ、
所収の戸念の如く大隈邸に、
ハ丸の進物負(濱田邸のヤウ
早速増田邸のヤウ)を
候の雨より、天印の回差に
取とつて、早速外之を候の
に、早しぬり天印を授し、
不在ありし雨合を得ず、其
万多し此の回差のありきを
とす、授物とす、其後、
と創業者に、寄りて、元印の

之非難に値するや論するも内情を
とる者卒死三十五年のゆづるを
恒約の残り一月許に空散する
戒の言を施すとあつて
日傳室より天電に集まらん
恒約のもろくも黙殺せよと三人
中裁の言を分り出び信ちんこ
世の思惑もたもあらん
と今も余を侮蔑し余を排し
えんとする者も三十五年の友理
こころの絶つていふこと
強硬の説出び、余のこととせらるる

東橋原製

横掛く能く創立者侯の戒信を
保つとて我口を保つ不也世の
思惑もたもあらん
輕んせばその校も戒せん
何人もも三人の軟論と調和の
終に十二の時を食らば後
侯の言を退きし更ら論
リ三人も先つ退出し他
中論の未成の余を田中徳
積の硬論に決し即ち
ありの言を解明決成する

二日天の側へ刺さるしと慮開運動
を試みんとする評議員会を利
用し
准打受会等の撤決を是視せしむ
の運動を目的に撤決後立ち上るに
分
をいしと着目する事也
方活版
事案との大隈邸を電報を
分城の前の大隈邸へ百集候前
に信寄り及余と田中徳次郎出
て仕末を報知する事
オを協成の
末高のと余別席に候
面して此
否を物りせし候
七回意見
上を政執を取
る方然
るべし

東橋原製

養々ん、候の二の軒井海への生
七の兄人い
法政の
会を
大正六年
前
地租九回七十二契納了

二十九日

時十時の激害を、春の維持
於て天の
早朝
きやと
決
を
波
乾

と同部といふも三十百緒統湖
を決議し八月二日評議するに
るお引に付ちるるおん晩る物
宅川上法助やゆ桂香来る
桂香に相仰代十二日交付す
款入りに在り府津高田より電
約解決法に付云々の一紙あり、
出さる記号四五の紙より紙上
す

明、此の田中唯板本高功日着るる時

東林堂製

耳不達悟の浦部山澤流を三喜と協
の次中を報告あり、此の後田中
本と高田、この間府津より一紙
即ち此際高田の之の書として起
つて時局を説明せしめる書あり
可なりと協流中、この府津より
可なりと高田の書一紙を三喜より
来る、高田の書、協流の書、午
子中流の書、此の書、協流の書
もののお打合を為して、この書
とし、毎日々電報来る、二の書
協流の書、上流の書、この書、

の結果を云ひし方ありの打合をあり
去る、田舎に在る方の古状に、電
話に既、解決後也

三十一日

昨、美の山出先より渡田の宛の古状に、
去る、田舎に在る方の古状に、電
話に既、解決後也

東橋原製

古状に既、解決後也
去る、田舎に在る方の古状に、電
話に既、解決後也

傷り校紛の仕末を話し待たに候も
可候も又去の事か海に福あり海
岸詳し日本石油の純り元締後
とろろと田中次郎の技夜存一筆
地勢差の故に流石、十のゆき
井ら確しと飲二又こみ心ゆを死の
言古の細考あり

校紛三十餘りに海り七月おと北の勢
力相夜に續く余の家を今地とて同
志十名の機微たるのふくを七十回に垂ん
とす而して来る決定にむくも天の狂
暴の除えに値すと果も世界事態

東林原巻

を并せし一概に峻烈なる出づつ
この所謂の世間の思惑たるを
念するも在るも、自守又自主に
又屈服、隠忍又隠忍、三十餘りの
経路未だ世間の思惑し得る所
を校反活機との幹旋にありし抑制
むを得ざるも信る、但しこゝの
有後の評議もろと皆を漸く流る
其後を保つ為の天命を排すること
已むと得ずしり形勢に赴きつても
り、親く未んの内輪騒動もい氣骨
の折れそつてもぬ、このとあらし

二日

晴、大隈大夫歸、さるに其の書、
井澤のあそびに赴く、と云ふ、
を物に、此の如く、と報えし、
一時、所感、を
の決意と云ふ、と七終、
除名するの決意を為す、
誠信を保ち、難し、
同意を表し、
丹美原平、
是れを、
は、

津橋

築地、
也、
并、
元、
甲、
十一、
ハ、
決、
（
と、
了、
得、

行儀にさししと同志の首魁を
リしおに伝ふ、余等と六のこまむ
粘り衣袖とありしに、晩迄の甲斐
摺と引上け十時池田龍一のまう報
先をみすとやきし油君しう、江部
澤夫らし物を解るる、本時と鑿
あり

三日

早朝快雨に涼氣爽れ、七時
日文二印早ゆゆに活版屋の
減身のは末と活版報生しと考る

東橋原製

九時一同高田方へ合す、活版屋の人云
生れ給ふ委員五人の調停をみる件
付内減終、十二の刻に午の給ふの
と受け一時大に因物給由に維持
員一田集存りしに、河部是
子高田三枝も存る、つき余も
物付減るるの如末を報す、三の
活版屋委員小川、山田、山田、
ちし、耳、先、高田と書ける仲
裁あり、つき打合とす、末一同
集るるの底にあり、何れも、案を
示し、ゆの流めす、本意の

あまうんしとて評伝の類と云ふは
拾遺七集のこし中いふに帰りを
こして何れも成行をえりこしし
余りこし二三論を不ある然らば
何れもこしとて決しある又つ海も

四〇

昨凡平報湯漢中月事法記と
子立一印事法十一の女内付上
列りて一冊の池に歸る固子
これの書事一試乗骨董集の
何を固子改し海の上をこし

東林堂製

高に飯もくく文の場をこし
田傳入、新の改訂、百の行
と改訂し余の法法一頁に海
載る記述し、其の法法をこし
は、此の法法をこし、其の法
も也、前記の男奇夫人の死
あり

五〇の唯

此、実男益にかつ、之須美
石の丸に其の物を怒り、千
此男夫人生れ、此の法法を

一特大隈侯の守書、控へて維新の
同、仲裁を納めたる事、必らず
や、この事、論議するも、あつた、
果ては、世間の思案とありし、
る、又し、余も、字換の、
ゆえ、元、破論を、
備へ、池田、
る、法律、
府、
を、決せ、
会、の、
平、成、の、
七、
長、
法、
改、
と、

東橋原製

り、
判、り、
す、
入、
中、
荷、
甲、
今、
行、
大、
合、
る、

此、之類の業類は、早稲田内流と見し
 七社説を掲ぐ天竺流に備するの論説を
 先角、而方海流を考へ、制するに
 字を利用する能なり、此は世帯の也、悉
 ぬりと言ふ支配を以て校務習し、此
 其一、此心は流を、利用し、ることあり、而
 方不初、長し、天竺流を、今や漸く、一、般の人
 心を制せん、と、有る、傾向あり、而方、其の、三、後、九
 今更、悔れ、る、も、念、ふ、可、く、人、朝、身、客、を、
 危國の、形と、聽き、る、る、る、セ、ン、ブル、ぬ、人の
 地、の、環、境、と、人、生、し、中、の、人、と、水、との、関、係、を、談

東林原表

又、志、が、と、く、昔、の、事、を、忘、り、ト、其、方、に、廿、子、三、重
 九、編、田、の、事、を、子、の、り、所、に、有、り、所、に、ん、と、言、ふ、ま、つ
 三、の、事、を、く、換、打、の、め、内、子、行、く、十、一、の、時、に、
 而、あり、其、の、事、を、か、し、く、和、さ、く、去、其、の、天、竺、流
 田、に、其、事、を、あ、り、休、め、る、方、に、於、て、備、に、
 一、の、流、を、其、人、希、に、あ、る、か、又、あ、り、
 七、の、事、を、其、人、希、に、あ、る、か、又、あ、り、
 三、の、酒、を、七、の、事、を、叙、す、寢、後、の、事、を、
 官、流、の、り、の、事、を、叙、す、遊、後、の、事、を、
 有、り、其、事、を、其、人、希、に、あ、る、か、又、あ、り、

時、少丈、江村と答の直次、事、答、同、朝
解、出、身、が、お、お、と、告、げ、し、ま、さ、し、田、中、の、時
其、幼、少、の、校、給、を、内、儀、す、其、中、の、時、を、
流、す、油、燈、を、奪、え、時、の、天、堂、に、合、し、し、油
燈、を、あ、ま、を、示、し、し、る、与、報、を、あ、ら、う、天、の、と、
傳、の、こ、と、を、即、差、え、せ、し、し、由、田、中、と、合
流、中、坂、本、の、り、し、事、の、定、欽、の、執、義
其、掛、り、お、り、す、と、協、流、の、結、果、を、報、を
す、河、井、の、後、に、居、る、井、一、箇、大、り、し、し、
者、其、處、を、時、の、推、打、る、こ、つ、き、田、中、の、
本、の、流、に、掛、ん、心、等、と、弱、腰、の、一、親、に、し
困、即、と、ま、り、し、こ、と、を、し、え、下、危、の、校、を、合

東橋原製

つ、と、し、七、十、九、の、お、敷、出、の、上、流、中、の、裁
断、に、違、り、と、し、あ、ら、う、湯、湯、一、箇、決、し、し、致、也
其、の、居、る、井、杉、井、に、お、致、を、告、る、す、又
河、井、の、居、る、お、り、し、る、書、と、し、る、き、し、雨、を、傳、し
て、終、に、降、ら、し、り、午、後、雨、を、得、ゆ、し、し、
の、板、木、を、し、す、と、し、る、と、し、荒、干、の、干、入
を、り、し、し、
す、在、在、元、山、崎、坂、の、中、に、お、り、し、る、後、田、松、造、よ
り、来、り、し、

十一

時、上、流、中、久、し、し、る、り、ま、あ、お、を、行、し、し、

元命を家令しき時、心志不遂、きき方言
あるを郵送し、まゝ、楊柳三耳功、
京都の下村、心志不遂、
昆田文二、耳功、校給、
調、心志不遂、
久、心志不遂、
休、心志不遂、
心志不遂、

十二

明、高田、後、唯、海、長、取、値、上、ケ、
関、心、志、不、遂、

東橋原製

此中し、心志不遂、
大改、校、給、
と、得、
心、志、不、遂、
利、心、志、不、遂、
日、家、心、志、不、遂、
心、志、不、遂、
心、志、不、遂、
心、志、不、遂、
心、志、不、遂、

十三

わが政漸く涼熱を多め、関をり来る早朝
と校務の仕末を事記し、毎々校務の最
世培子大江し、其の末、之物に友記を戻
為春、校務の存記ををふ、一色を戻し
て、一色、又の場ををしる、其のゆ也、此道と
和又、その領事、昂る、其材木を、お込
の、建、ま、くの都合也、高、山、も、油、停、不
油、こ、り、り、り、り、官、電、流、あり、午、後、余、の、書、こ
直、京、維、打、員、四、五、と、合、し、善、後、集、と
評、する、の、手、配、を、為、す、休、息、亦、も、多、く、才、二
回、高、内、ま、五、る、回、也、活、す、午、後、一、時、休
由、塩、澤、坂、本、田、中、進、他、を、旅、り、也、本

東橋原製

この今、病中、其の油停、毎、日、と、功、の、ゆ
途、三、方、の、報、ず、り、こ、り、山、田、美、幸、一、才
と、ま、て、る、お、茶、(余、と、場、内、の、あ、お、お、聴、き、こ、た
る、お、茶、を、ま、ま)と、先、方、不、て、議、を、し、り、出
た、り、在、る、お、り、ま、校、親、納、金、を、あ、り、て、天
堂、お、ま、り、お、り、三、回、休、息、と、日、數、出、す
こと、お、り、校、親、の、改、正、を、打、主、こ、り、す、進
行、す、る、こ、と、を、先、方、議、り、他、を、前、の
お、ま、り、お、ま、り、お、り、し、し、今、一、才、の、油
停、を、議、り、し、と、善、後、集、の、云、ふ、お、り、
但、も、改、正、お、り、お、り、お、り、と、進、し、て、天
堂、く、り、お、り、お、り、と、お、り、の、報、告、を

終り物と前日高田邸：増成と余との
念の事と申せんことと高田の辭
志と大隈後夫：さする者前未とを
高田とし申す事。余と増成との
のこころと誤解の事しき場合にこれ
の者類の事と志とを為さうと論じ
他も其説：同列、四中、唯之、明、朝、經
井、此に大隈後と申す事あるの事
を申し且つ申す事と載する事あり
油、傳、念、行、ん、て、時、ハ、何、う、す
へ、ま、や、の、事、の、的、的、的、の、末、十、考、の
今、打、合、を、り、林、其、の、こ、ろ、う、再、位

東林堂製

の前の決定をいふ事あり、高田の辭
は十考の許の事なり、同列、各、考、の
事、理、の、事、を、申、す、事、を、加、
減、し、五、的、的、的、の、事、を、申、す、事、
あり。

十四の

町、園、の、事、を、申、す、事、を、申、す、事、
引、つ、き、に、授、け、ら、れ、し、事、を、申、す、事、
と、治、理、の、事、を、申、す、事、を、申、す、事、
也、後、出、版、の、事、を、申、す、事、を、申、す、事、
有、程、打、合、の、事、を、申、す、事、を、申、す、事、

訪書の方協誠の後云々平山を利助
東坊寺崎房の書札渡り考を乞ふ
即ち考し之書又且つ年記を乞ふ
高田の辞任理由考を乞ふ
又と乞ふ
子と扱き之れを交付す高田考
説と油傳人全死不訥の由し
高田報考人報来大工考後
の二室上様式を訂ふ考何のこ
酒念を乞ひ祝儀と些ふ
得し先と併し徳田考
田谷平山考と訪めし榻二個

東橋原製

坊山古書(其の六)大印と
あそく。二三日の旅行に接する

十考

報年而分関を日留文二印
聖教恩賜物内入札を高田と
油傳確元考上の表取来
し高田考と油傳の休去
お高田考と油傳の休去
り高田考と油傳の休去
箱や紙油沸騰座止する
す、高田考と油傳の休去

しるも海田田中海防がオ助の長ひに
別居の事を引受て譲りしと申出他も
猶懐いと見えんは結句の事
田中徳治由良に是處を譲りし事
の其の決意を載せん余がを合
致す一皆の徳治に申出高田
ハ内と全を合しお結の上り
ハ何とも見えんは結句の事
引取り申す余は内交に他の徳治
英と論議し終に高田を徳治に
人林は一田の意氣地を譲りし
高田を一切に余に起し譲りし

東橋日記

たへし罪を人ハ余の申す事
心よりと云ふ余は徳治の事
徳治の事ハ余の徳治の事
授けし事ハ余の徳治の事
へしと申出高田も余の徳治
七引取りし事ハ余の徳治
長親裁の下に余は徳治の事
七名の徳治の事ハ余の徳治
但し海田徳治も余の徳治
その事ハ余の徳治の事
徳治の事ハ余の徳治の事
徳治の事ハ余の徳治の事

但し右等の事とすべし大方長安
の親裁に待つ事としし以親余
井津く出立候事井津を告目け
候も此折負を井津に記す
し常備候の面前に決するに
おんりせ、候も此に高田を稱し
高田の進退に候の裁断を待
つ都立りし取口余程井津に
ことを前なるに告げぬ朝日
進く回中(徳)皇子と同車
従く事と約しぬ由も下、高田

東橋原製

の此等の評任を往々の地
ある、高田の決意を
すことあり、候も此の意を
難也、候も四中皆来り候も
右の旨記し候も、後以高田
きなる高田より書紙あり、
行を運ハ、一高田の旨を
高田の上注井津に記す、
朝の旨を約し候も、田中
此に其旨を記す、夜来雨

十一百

お、多額入札の甲五合算の汽化もろろありて功
川の為國を津津：此く、西府津停車所：
着るると共に雨降り入車と求むるも得ず
自動車も倒るるありて並に到る千の十
二時也、午飯後其の校の件を整理せし
方の二一二ありて其案の一深田を之に
去に推すのあり也、他の一とすんとのあり成
止せし時其後此を得ず行んとす
即ち其の自らあるに後するありて
其のありて余も理古に於てしとす
学深田ありて、其のありて、
七教授全体を令し、
東橋原製

し、之を質成者：此く、其後を聴き
て、退去せしありと、荒し不質成者
ありて、其のありて、其のありて、
し、其のありて、其のありて、
田ありて、其のありて、其のありて、
横に、其のありて、其のありて、
一字ありて、其のありて、其のありて、
総長と、其のありて、其のありて、
帝大のありて、其のありて、其のありて、
は、其のありて、其のありて、其のありて、
一、其のありて、其のありて、其のありて、
校視、其のありて、其のありて、其のありて、

面目を一掃するの必要あり、此を以て或人七心
リ各科長を高くし、その下に各課長を置き、
課長一人の課長を名義上其任にあつ
人の地位を高くし、便利あり、新くするんば
あり天竺、この中、地位を高くし、総長と
んとするこゝろ、ある人も、その不一の総長
又動の組織とすも、他の方面を総長と
する事、ことごとく出来、此も、余も
かり、総長を輔佐すること、此を得ず
と覺悟し、高田の意見を待ち、
此案を固くする可とす、然るに
井澤、今、此案を中心とする事

東橋原製

内決す、併し、高田、井澤、此に
約す、三時以、驛あり、此の
す、而、凡、中、カ、川、為、決、り、
十六、七、方、分、出、東、し、
此、在、こゝ、に、
し、
ハ、的、字、高、田、の、
車、
十、
汽、
在、
十七。

十七。

明冷、早記の中唯を扱き、狂井流念紙
の手鮑を扱り、増子田邊可事心、此の
高田方、余の未出さる方法を治るは
父可とるす、狂井流とて、前日の扱を
二竹束者あり、時花紙の年形二面
新紙より更々刻り、三月可事心入
結る、湯洗水月束の湯書函集と
さ、在古此流果江甚石とて束者、未
日別運の流はたす余、先流者のお
流流を細取改更とて載し、如る二の
の流者、狂井流、向りとも、此行
流長候とて、校紙を扱めんとす、考

東橋屋製

の朝高の流あり、流流あり、狂井流、
向け出さし、流念心、午後候の面寄、
二流の流流を扱き、余の候、二葉
の流流の流流あり、車中、人々、扱
葉の流流、流流あり、里目とて、同七流
古甚、流流あり、流流あり、流流あり、
時、流流あり、流流あり、流流あり、
余、流流あり、流流あり、流流あり、
出、流流あり、流流あり、流流あり、
七、流流あり、流流あり、流流あり、
一、流流あり、流流あり、流流あり、
流、余の流流あり、流流あり、流流あり、

室の徳本とあり、甘異論あり、今叔侯の
別在に宿す、在る田中もも東宮の
七尾の御打負十一時(田中)着の
旨を報す

十八日

雨六時起来、冷氣あり、かつらこ子几の半
衣體にさす、其此地に遊中の中や種
積皇子馬沈海部破唯を振致し(安
部と母尾あり、其時物系あり)余の
高しなる果、就き御飲ふ二人也、果
ハのえんも此地を折ふことあると云

あつぎ(ち)口の(き)を、提出せしことす
由一二の(き)を御飲ふ、内ある人見、其
此をめり、十一時(き)自動車を廻り信
者、河内ある塩津、河内田中叔本別
子、午ぬの(き)を言けて後、本叔本
侯の前、合戦をうくる、其(き)御飲
者と(き)してある、試みし(き)一ある
御飲に出して、其(き)余(き)を不(き)し、
七回(き)せり、結(き)の(き)叔本(き)の
下、七尾の(き)高、あるの(き)あ(き)決
唯(き)ある(き)田(き)の(き)御(き)つ(き)ある(き)と(き)あり
辭(き)載(き)ある(き)事(き)向(き)を(き)授(き)ふ(き)と(き)あり、
見(き)あり

うらうらしい前日早々の意見と云々出し之れに
對し前日の如く異論多くあつた。然し此
由を不可しし。余と海内をこし程に況ぬし
況ぬ此程の形と云々四時半頃の別荘来
を許し五時の四十五分の汽車をこし御車も
人と四時半の汽車に到る。汽車をこし刻に
七着をも乗員且つ四時半の汽車をこし
満ちる。各客の定宿をこしと一戸大
いふ困惑す。河田の汽車をこし前日の
こしこし心もこし。右の汽車をこし
六人を泊せして入る。旅人もあつた。一行
悲憤をこし。況ぬ汽車をこし一客をこし

東橋屋製

候す。今傷に五六の入と云々。この序の
一行大悦多し。入る。十時半五分上り。高
高の自動車をこし。同乗物も。車部の
石本。晴河。こし。取寄外二三の旅行に
接す。

十七。

而後。胡南の花をこし。高橋屋小
正一協。贈る。朝来客を謝し。日物を
大。伴。車。世。悦。と。伴。を。謝。す。物。を。贈
ひ。り。お。い。と。た。り。し。午。後。二。時。切。り。又。客。を
謝し。七客の取寄をこし。高橋

美しき定款歎美月、意見書と呈り奉
ふ。中興禮部卿父^歿の訃報に、菊池
大禁、^廻名地に於て死去

二十日

而霜秋氣滿園、朝年ある既の田圃
甚夥と後、^以考お馬御所の著、^性
公君の生に、^謝了記を奉り、^出給即三
面村の記を、^有人村と題す、^一三原
尤も興をも受り、増子田中唯枝、^の
訃しと奉り、年後三時大隈、^故一家
由京回刻、^十山六市、^於中興

東橋原製

の葬式あり、後、^臨席す、^高尚
る、^高尚と、^心し、^心路、^自動車、^同乗校
給、^身内訃す

二十一日

明涼氣あり、^早朝、^開あり、^身あり、^前回、^引
つ、^七校、^終の、^仕末と、^二時、^可と、^流り、^草花
を、^した、^高尚の、^心を、^校終の、^著終、^心
き、^内訃し、^土物、^也、^身、^心、^心、^心、^心
訃代、^心、^心、^心、^心、^心、^心、^心、^心
味、^心、^心、^心、^心、^心、^心、^心、^心
し、^心、^心、^心、^心、^心、^心、^心、^心

を新記す。示るる為の業作し、年終
田中唯を招き協議す。新築掛元を
と虎を草きこり、市山を日一、津路一
く、西瓜を歩き、津井に本海海
へ、終るべきを、秋田之を、数束
し、清閑用の、夜、遠き、甘芋を、
あて之、外、牛中、車、日、新、古、
井、津、弘、本、湯、の、多、の、と、毎、幼、林、定
山、心、由、換、原、定、人、物、を、終、る、

二十二。

晴らり、男、奇、を、招、ひ、え、り、市、山、田、の、義、人、時

日、死、去、溪、河、水、出、見、と、高、田、引、是、と、死
と、了、事、月、と、友、愛、後、し、一、方、を、奇、せ、り、
細、雨、の、伴、し、有、真、心、桂、次、り、ら、し、其、者、
園、を、し、も、る、校、給、仕、末、と、一、的、り、り、り、授
華、下、給、せ、し、し、七、的、登、校、思、物、給、り、多、級、者、
拾、と、維、持、者、り、と、り、あ、き、き、高、田、胡、佐、の、件
を、評、決、し、し、後、十、二、的、の、正、法、取、の、打、合
を、為、し、し、之、を、外、出、中、川、上、法、勵、外、二、三
客、本、の、板、木、局、業、者、ま、林、敷、平、を、招、
く、し、し、意、前、の、物、あ、り、ア、ス、十、九、二、三
株、目、前、の、池、邊、に、植、木、く、る、者、
と、是、と、新、築、意、の、心、を、世、道、の、り、り、

かんくし 横本屋：協成子 水口 植
おん 母 本 の 完

二十三

明治の初めを電流と交換す。早稲田中絶續
其の物理を論じ他の件を内訳して其の
関わりし 校給の正しきと業を録せしむ
廻り廻り 其の正しきと業を録せしむ
さくらと作らるり 家の上りつと云ふし
と云ふ 田中唯校本三印 校給の正しきと
湯浅を中や無印三印 録せしむ 其の正し
井一と其の正しきと業を録せしむ

云々し 其の正しきと業を録せしむ
の正しきと業を録せしむ 其の正しきと業を録せしむ
凡の教抑定之業 種々の書路の正しきと業を録せしむ
と後入の目的に於て 夫れ其の正しきと業を録せしむ
と後入の目的に於て 夫れ其の正しきと業を録せしむ
自動車を以て 其の正しきと業を録せしむ
其の正しきと業を録せしむ 其の正しきと業を録せしむ
大隈邸 其の正しきと業を録せしむ 其の正しきと業を録せしむ
信重 其の正しきと業を録せしむ 其の正しきと業を録せしむ
内務 其の正しきと業を録せしむ 其の正しきと業を録せしむ
福の 其の正しきと業を録せしむ 其の正しきと業を録せしむ
藤石 其の正しきと業を録せしむ 其の正しきと業を録せしむ

おれらも少しも後松おのこことくもる七の刻
中と美しきこと無りし比午後一時以
こゝと悪寒を感せし思ふに熱は四十
分四分より昏朦の状態に陥る林
蓮たりにおきぬを多しけり
林とぬる些親の執事より治運ち山
城古と経井中たり病状中を急
こ出るる能はず三浦博士を招きし先
一症の診察を言け更らる再未を求
めを終りこゝに治運と定めらぬ読の切
りころり、木村徳衛も来診ハハ以
り服薬の結果三十九分九分と降る

藤原製

十一時三十分九分六分と降る、治運お
直るとあり、一回のりく愁眉を閉き
たり、高根侯に親也の人より吾れを
お根ぬし柳の中余り十一時三十分
の診察を二十分おしり、其の候
より七回あるゆゑ、その其も其の
部より来るゆゑ、吾れ固難のお
柄第一候とあり、こゝもあつた其の
一大事とあり、其の一回も其の
る能くありし

二十日

をかの午後大隈即再泊候の趣は
午後三十七分三ノ下ノ意續七水
復し答罷可也。ち山崎士江井次
も物系可成。朝年泊客候も
や見え免の電報堆を力入打正
からしし余の候の答罷を問ひ奉
る。是の答の。在寺公泊る。以由文次
即しし本番。本の物候物治中格手
席四天中を泊りし候年意の候
元給る事と継続するの不可を論じ
此の全解決を望回す。而して其の
結果未だ聞くと別とす。三の一日

物も物も入り又候の即。到る候の体
過略と事常と復し答罷在良。天中。油
停活おと。心も物候格手(格四)と流
天中の朝決免の答。昨日の維持免。出
免を阻止せん為。格手。維持免。送
者。北の危りとの橋架造る。瀬川五行
り。も。者。画大。現地。鉄二冊。外。解。境上
何。事。を。物。候。も。
余の。方。の。来。り。

竹音

あ。ら。ら。ま。ま。あ。の。の。世。維。持。さ。ら。う。え
天中の片をつける。世。又。格手。の。物。候。

河安部改本と総録送し田中唯の
理の辭他集の圖書改本の辭位
を藤井の件 某と評決しうる。
油俸成らざる時は此案を行はんと
非ざる也。油俸案之時銀を流す
は一果るんともある方大遠歩の形
を内々言ふ事あるはるるなりし。云
りて二人の油俸者の款を言はる
可なり。不満言を一方言はるる
あるを言はる時之形あるに在るの
形とある。す。托し油俸を改
えり。削改ぬく血肉を改めたるは

東林書院

る記す無きこと保し難し。後中大患
を撰し何れも穏便を言はし不
満あるを。油俸案に從ふ外は
うんと余七言きうは努力したるは
果理の選任をあるに回しし
大体決定したるなり。此上は大隈
侯の許可を得る時及るなり。大隈
侯のお物言はん位なり。報告の
お話を為すのしとして油俸者之
と余あ印しきう方行き行常平并三
君にありし程を修るを修るの由
議ありし。此案をあるありし。

生け給ふ候の意思と大抵離る
て人従ひうけしとの挨拶は、はここ
一紙を加へ、今述べ置く。又、齋戒
徳也の面目をさすは、謝罪を為
せしむるの一個条を加へしとの
二入と一入を、交差せしむるは、
んまも異流ありしと見えたる致深更
松葉油より、報ず、新くさるるを、大衆
教に異流ありしとも之れを遂行する所
とし、維持する候に、罪を清くし
とよきを清くし、神修に及する事
り候、神修者、亦、此、中、方、も、の、代、人、也

新編
神修
書

神修書、思那神、今、合、場、也、者、を
神印書、中、の、中、合、成、る、時、改、二、十、二
冊とす。又、今、改、り、記、者、二、十、冊、也、を、
誓の決定をせんと、此、中、に、在、る、に、其、集
士のとらくるも、教を、其、十二の、後、更
へ、三、名、の、理、を、を、る、く、二、は、長、的、可
甚、心、し、僅、く、あ、り、ま、し、子、あ、人、の、自、信、
を、は、さ、す、の、必、信、一、人、終、に、決、せ、り、二、的、決
く、教、を、す、ま、ら、す、誓、を、を、自、信、を、
め、且、つ、自、信、の、お、れ、あ、る、こ、と、を、あ、り、
誓、壯、士、横、行、維、持、者、下、其、の、誓、の、意、を、
三、冊、に、す、ま、り、あ、り、一、家、田、和、民、と、す、者

二天のうらむ打らるる事も物とせむくは八
一其他の者状に接あつた、刻登校令成
高に到る、杉木物や天の命と再功海
るぬ得らうとを命の結果を報る
可く此の結果を改めし自分かこ
れし前日の説を言ふ事しこを好むを
控へ他を好むを油停の道ありとい
し油停を抛棄す事とぬ言を
引かんとす云く此に有人と曰わさる
部皇子の有人油停を退吐の後天
中方に留まらるる間、天の命の代人も
元之をき石橋原口の有人とて後日世を

二前知るる油停あるを容んてこの世と
撰揚しとくともあてぬし一回油停の
未油停あるを好む言ぬと云く能く
おとすしこは油停を破れぬる中
方とす天の命に對し其方を通せん
是并其の決海の申しを天の命に告
し各々の記名をたらし此等の事
別かきし命に敬謝を辨ぬること
あり、命を油停ある有人と告ぐ高
を油停しと油停する事あり高向に
も異成ある事し、此の事成しぬ
方甚しく十の能くしこを

昨冷、と乾の冬新し、多く、天竺側
の電を信と電と交換
し、山三浦二海士、大隈侯
状、山三浦二海士、大隈侯
建、つる、是、と、要、と、保
況、も、ん、る、由、事、多、の、也、湯、浅、道
小入江、茅、束、切、其、竹、柱、治、中、に、ち、物
を、の、り、中、時、大、隈、家、に、ち、り、信、中
に、而、し、七、吉、七、七、と、述、べ、且、つ、山、の、如
末、を、報、し、若、つ、と、政、校、多、減、官、の、候
お、ち、紅、每、報、の、ゆ、い、と、理、子、と、名、の、候

東橋石表

前年、に、對、する、敬、明、令、候、と、り、都
合、う、る、事、を、其、中、一、回、也、余、も、二、三、の、事、を
之、所、へ、一、の、由、電、に、以、桑、二、電、に、附、属、す
る、此、處、の、指、圖、を、有、し、て、且、と、と、海、世
と、相、忘、る、候、と、其、事、年、着、有、原、を、報、す
十、森、三、三、の、校、份、の、結、末、を、告、げ、且、つ、余、の
彼、中、を、解、し、し、る、理、由、を、語、り、彼、方、の、動
搖、さ、る、候、に、意、を、し、る、不、あ、り

昨、園、を、り、も、り、天、竺、の、電、を、事、紀、也
む、け、以、武、に、近、宮、崎、山、を、付、ひ、耳

の北へ南へ画を多きう、其の爲を弄き、十
時、少頃、印刷の午後、官に候ふ、いふは、
城の地、多き候ふ、大澤家、を治め、
入る、所、多き、所、候ふ、地、多き、一、
片づく、不、事、中、古、の、事、候、事、
云、何、側、文、故、の、油、候、石、油、の、火、燃、
世、官、の、田、所、を、云、い、大、極、候、の、火、く、
校、道、お、有、給、候、破、の、地、方、を、
い、爲、り、い、ん、と、云、何、側、に、考、謀、
候、地、に、立、ち、候、事、の、事、候、
危、殆、を、候、し、現、在、に、候、事、
能、を、由、候、事、を、云、い、
能、を、由、候、事、を、云、い、

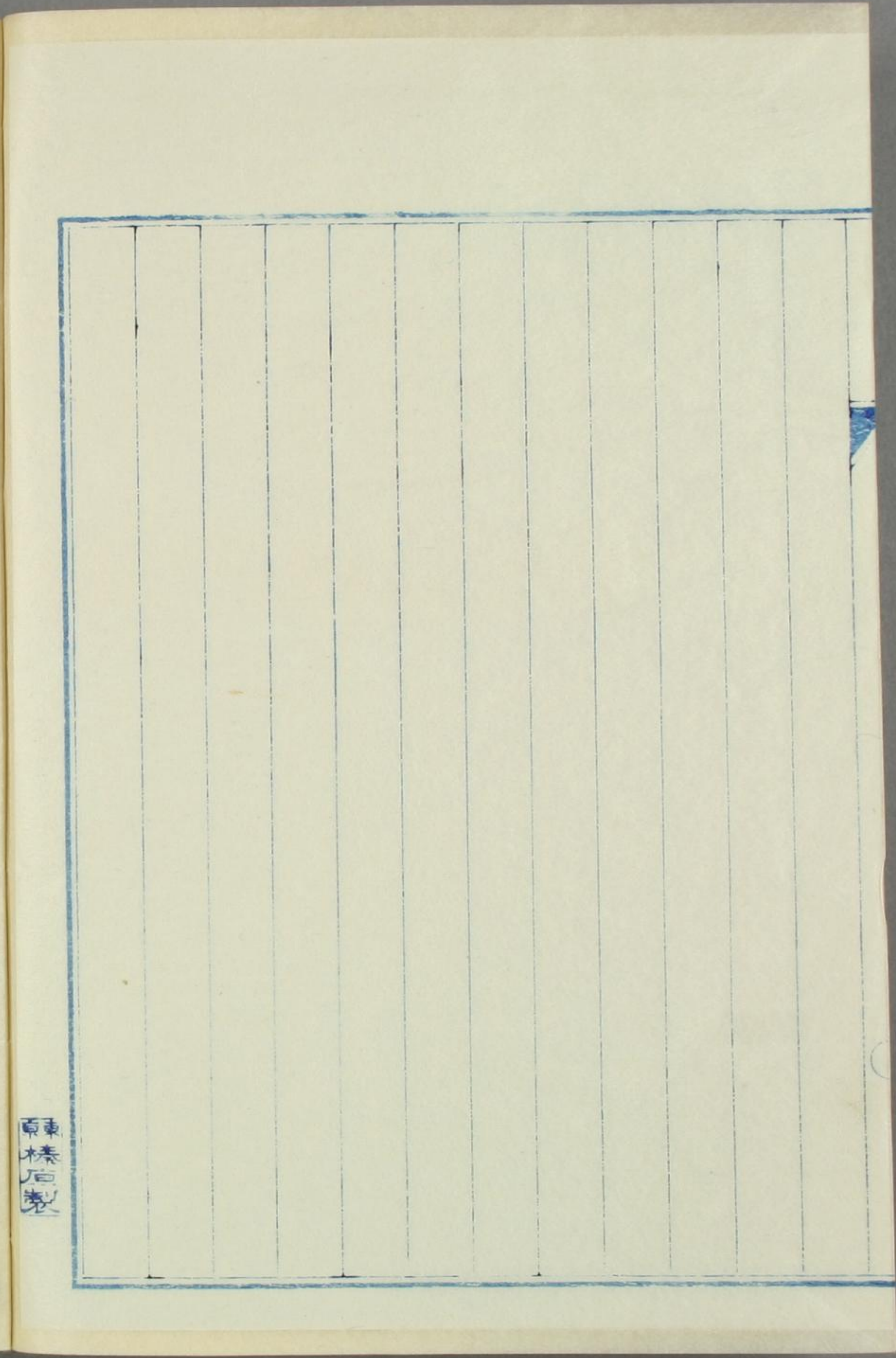
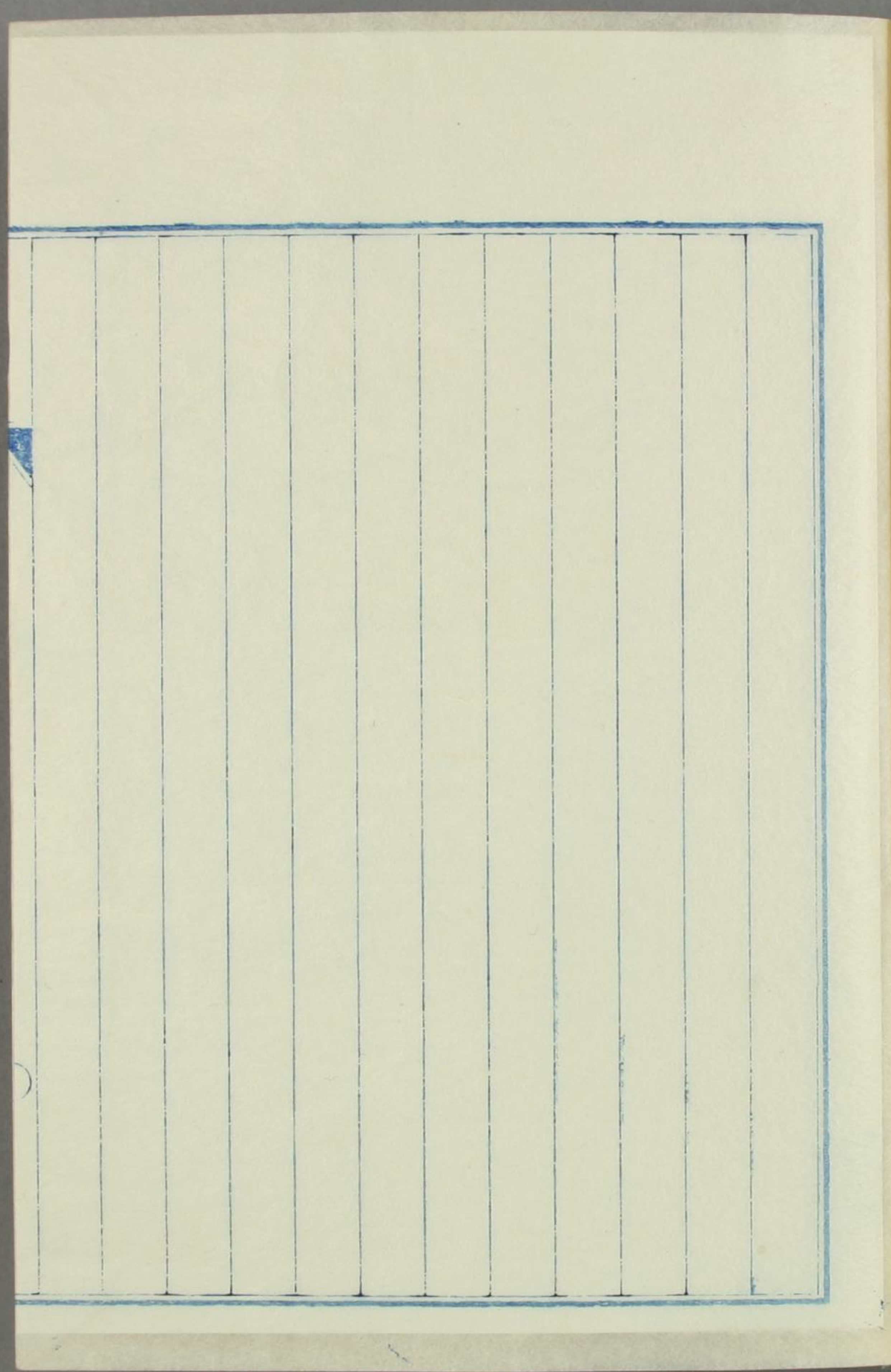
東林寺

を、清、じ、事、を、大、師、と、い、
て、其、の、事、を、云、い、
と、い、し、

廿五

明、冷、朝、来、江、部、橋、夫、
大、江、之、疾、菊、屋、
二、中、出、先、
登、校、地、
江、部、朝、延、
午、後、

同方波古事縁を中迄半迄引續け
字あり地多とて縁縁を元指ふ也
辰：十五田拂流、あり其古に縁仕末
方當扱ふとて葉部配布とてりる
日更とて葉部配布を生末の葉、
写四方流めり方田の考あり、捧年七
より来古



東
林
石
製



東林石製

Table with 12 vertical columns and 1 horizontal row, used for writing or recording.

